

よ し ぶ よ たたか もの いか よ てき か もの
善く士たるものは武ならず。善く戦う者は怒らず。善く敵に勝つ者
は与にせず。善く人を用うる者はこれが下と為る。是を不爭の徳と
謂い、是を人の力を用うと謂い、是を天に配すと謂う。古の極な
り。

【大体の意味内容】立派な武士は、決して武張った態度を取らない。すぐれた戦士は、怒りを顕わにしない。よく敵に勝つ者は、相手が望む戦闘パターンに巻き込まれたりはしない。上手に人を使用する者は、その人に対してへりくだり、謙虚に対応する。これを「不爭の徳」すなわち他人と争うことなく敵味方ともに合わせ呑むような仁徳というのである。またこれを、「人の力を活用する」つまりその人が、「誰かの命令に従って仕方なく労働する」のではなく、自ら進んで力を尽くそうという意欲や身体能力を発揮しやすい状況を整え、活かすことなのである。こうしたことを総じて「天に配す」といって、人間同士の矮小な論理をぶつけ合い消耗しあうことなく、天の摂理・原理といった大いなる合理性にすべてをゆだねてしまうことだ。それこそが太古から働く「道・徳」の極致である。

二〇〇二（平成十四）年にサラリーマンでありながらノーベル化学賞を受賞した田中耕一氏がNHKスペシャルで取り上げられていました。自分の「業績」に疑問を持ち、受賞後も「自分に何ができるのか」と十六年間苦しみ続けてきたとか。

「一滴の血液でアルツハイマー等、あらゆる病気を早期発見する」技術を確立するべく、名もないけれど可能性を秘めた若手研究者たちを発掘しては雇用し、共同研究に取り組み、そんな歳月だったと言います。そうして遂に、アルツハイマーの早期発見を可能にするタンパク質を発見したのです。

